

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」が幕を閉じ、パリ日本文化会館は平常運航に戻りました。

本号では、3月中旬から4月初めに当館で実施しましたNHK 福島放送局との共催による「福島の桜」写真展と日仏ブルキナファソの子どもたちによる水・気候変動問題に関する「地球子ども広場」、そして「菅野潤、山形由美、五世常磐津文字兵衛」コンサートについて報告致します。

目次

1. 「福島の桜」写真展 2~3

NHK 福島放送局は、過去 7 年間にわたり「福島の桜フォトコンクール」を実施してきました。今回は同コンクールに入賞した 350 の作品の中から厳選された 15 点と、同コンクール審査員の一人である写真家・大石芳野さんが 2011 年から 2019 年までに福島の原発事故の影響を受けた建物や自然や人物を撮影したモノクロ写真 10 点がパリ日本文化会館地上階ホールで 3 月 19 日（火）から 28 日（木）まで展示されました。本展の様子は NHK 等で日本国内でも大きく報道されました。

2. 「地球子ども広場」（出会いとスペクタクル） 4

3 月 30 日（土）、日仏ブルキナファソの子どもたち総勢 20 名（舞台上上がったのは 13 名）がパリ日本文化会館に集まり、前日と当日のリハーサルを経て、大勢の聴衆の前で日本、ブルキナファソ、フランスの子どもたちの順に演劇や踊り、歌を交えたパフォーマンスを通じて、地球環境問題の指摘と解決策の提言を行いました。

3. 「菅野潤、山形由美、五世常磐津文字兵衛」コンサート 5

4 月 3 日（水）、パリ日本文化会館でピアノ、フルート、三味線の異色の組み合わせにより、各分野の一線で活躍する 3 人のミュージシャン、菅野潤さん、山形由美さん、五世常磐津文字兵衛さんのコンサートが開催されました。

① 「福島桜」写真展

NHK 福島放送局との共催により、3月19日(火)から28日(木)まで、パリ日本文化会館の地上階ホールで「福島桜」写真展を開催しました。

NHK 福島放送局は2011年3月11日の大震災と原発事故後、桜を復興のシンボルとし、過去7年間にわたり福島民報社や福島県写真連盟などとの共催によるフォトコンテストを「福島桜」というタイトルで実施してきました。福島県は阿武隈高地と奥羽山脈によって浜通り、中通り、会津の3つの地方に分けられ、東西で気候が異なるため、桜前線は浜通りから会津まで東から西へと移動していき、4月上旬から5月中旬まで桜が楽しめるそうです。

今回展示されたのは同コンテストに入選した350の作品の中から厳選された15点と、同コンクール審査員の一人である写真家大石芳野さんが2011年から2019年までに福島の原発事故の影響を受けた建物や自然や人物を撮影したモノクロ写真10点です。

また、3月26日(火)には当館レセプションホールでレセプションも開催されました。主催者であるNHK 福島放送局の鈴木仁局長に続いて、筆者、木寺昌人駐仏日本大使の順に挨拶があり、内堀雅雄福島県知事のビデオメッセージも上映されました。その後、鬼武みゆきさんのピアノ演奏が披露され、福島の酒が振る舞われました。来客の中にはイザベル・ウードン駐仏カナダ大使、アンスティテュ・フランセのピエール・ビュレール理事長、当館運営審議会委員のジャン＝ロバール・ピット倫理・政治学アカデミー終身幹事ご夫妻、同クリスチャン・ソテール元経済財政産業大臣、笹川日仏財団富永重厚理事長、ミシェル・ポルナレフやシルバール・ベコーに詩を書いたピエール・グロ氏、JNTOパリ事務所長、CLAIRパリ事務所長、JETROパリ事務所長、JICAフランス事務所長などのほか、在仏福島県人会の方々など、大勢が参加されました。会期中の来場者数は約3,200人に上りました。



「福島桜」写真展の展示風景

この展覧会とレセプションの様子はすぐに日本でも報道されました。以下に福島県地元紙の記事とインターネット上の報道サイトをご紹介します。

- 1) 展覧会の様子を伝える記事：福島民友紙（3月21日付朝刊3面）、福島民報紙（3月22日付朝刊5面）
- 2) レセプションの様子を伝える記事：福島民友紙（3月28日付）、福島民報紙（4月3日付朝刊10面）
- 3) 在仏日本人ジャーナリスト・鈴木春恵さんの記事：
<https://news.yahoo.co.jp/byline/suzukiharue/20190322-00119006/>
- 4) NHK ローカルニュース番組「はまなかあいづTODAY」の特集同録
<https://movie-a.nhk.or.jp/sns/qGg/r62ka5fl.html>

この他にも3月27日の「ニュース シブ5時」で全国向けに放送され、日本時間の3月28日夜にはNHKワールド JAPANのNEWSROOM TOKYOでパリからの中継を交えた企画が放送されました（21：40～27：20）。

② 「地球子ども広場」(出会いとスペクタクル)

2009年から2013年まで、筆者は駐ブルキナファソ日本大使としてブルキナファソに駐在していました。その時期に、2010年のことですが、名古屋の椋山女学園大学附属小学校がブルキナファソの南にあるバンフォーラという町の小学校に机と椅子合わせて683脚を寄贈しました。同地の学校では机はあっても非常に粗末なもので、中には机がなく、地面で勉強している子どもたちもいるという話を伺い、それを伝え聞いた椋山女学園大学附属小学校が寄贈を申し出てくださったのです。

そのことを契機に、椋山女学園大学附属小学校の子どもたちと、ブルキナファソの首都ワガドゥガーにあるクルーゼ・プリュス学園の子どもたちとの交流が始まりました。後者はフランスのストラスブールのギュスターヴ・ストスコプフ小学校と既に交流があったことから、日仏ブルキナファソの3カ国の子どもたちが水・気候変動問題を共通のテーマとして調査研究発表をし合うという「地球子ども広場」プロジェクトが始まり、2016年は名古屋で、今年パリで発表会が開催されることになったのです。

3月30日(土)、日仏ブルキナファソの子どもたち総勢20名(舞台上上がったのは13名)がパリ日本文化会館に集まり、前日と当日のリハーサルを経て、大勢の聴衆の前で日本、ブルキナファソ、フランスの子どもたちの順に演劇や踊り、歌を交えたパフォーマンスを通じて、環境問題の指摘と解決策の提言を行いました。初めての国際舞台で緊張してはいましたが、それぞれ立派に発表を行いました。

折しも「黄色いベスト」運動のデモ行進が会館の近辺を通り、周辺道路が閉鎖されたにもかかわらず、会場にはアラン・イルブド駐仏ブルキナファソ大使父子をはじめ、駐仏日本大使館の堀内公使、ブルンジ文化支援協会のジョルジェット・ミナミ会長など、70~80人が熱心に子供たちの演技に見入りました。



「地球子ども広場」のフィナーレで環境問題解決への提言をする3カ国の子供たち

③ 「菅野潤、山形由美、五世常磐津文字兵衛」コンサート

4月3日(水)に、パリ日本文化会館地下3階大ホールで、ピアノ、フルート、三味線のそれぞれの分野の一線で活躍している3人のミュージシャン、菅野潤さん、山形由美さん、五世常磐津文字兵衛さんのコンサートが開催されました。人気が高く会場はすぐに満席になりました。菅野さんは桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業で、少し先輩、山形さんと常磐津さんは東京藝術大学器楽科、邦楽科卒業の同級生という非常に息のあったトリオです。今回は3人そろってバルセロナ、パリ、ザルツブルクの3都市を巡回公演することになっており、パリは2都市目になります。山形さんと菅野さんのデュオコンサートは2016年11月9日(水)に山形さんのデビュー30周年を記念してパリ日本文化会館で開催されましたので、今回は2回目の共演となりますが、今回はそこに常磐津節の三味線方の五世常磐津文字兵衛さんが加わり、一味違った趣のコンサートとなりました。

プログラム前半は、クロード・ドビュッシーの「版画」(ピアノ)から始まって、マラン・マレの「ラ・フォリア」(フルート)、ジャン=バティスト・リュリの「パッサカイユ」(ピアノ&フルート)、ヴォルフガング=アマデウス・モーツァルトのソナタKV14(フルート&ピアノ)、フランツ・リストの「愛の夢」(フルート&ピアノ)、加藤昌則-ジャコモ・プッチーニの「トスカ・ファンタジー」(フルート&ピアノ)で終わり、後半は常磐津の伝統曲「両国三人生酔」(三味線)で始まって、五世常磐津文字兵衛編曲の常磐津「将門」の抜粋「ほのぼのと」(三味線&フルート)、同常磐津文字兵衛作曲の「猫」「叙情回路」(三味線&ピアノ)、松波匠太郎の「ピアノ、フルート、三味線のためのトリオ」(フランス初演)、そして宮城道雄の「春の海」(ピアノ、フルート&三味線)で終わりました。そしてアンコール曲は滝廉太郎の「荒城の月」でした。

普段から仲の良い3人のミュージシャンだけに、非常に息の合った演奏でしたが、特に菅野さんのピアノと山形さんのフルートの柔らかい音色と常磐津さんの絶妙な三味線の音色が調合され、新領域の音楽に誘い込まれるように感じられました。



新領域の音楽を感じさせられた、ピアノ、フルート、三味線による演奏 (写真: MCJP/G. Shirasaki)

以上